



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 207

知られざる、ある日の甲子園秘話

台湾へは東京から飛行機で3時間少々距離だ。日清戦争で中国が日本に敗れた結果、台湾は1895年から1945年の太平洋戦争終結まで50年間も日本国内!であった。

九州と同じ大きさの台湾だが、そこには富士山よりも高い4000m近い玉山をはじめ、3000m級の山が258座もある。玉山は、日本時代は新高山と呼ばれ、真珠湾攻撃時の暗号“ニイタカヤマノボレ”でも知られている。西洋人たちは海上から観て、「Formosa・麗しの島」と名づけたが、19世紀以前の台湾は中国本土では「悪山毒水蛮雨の島」と酷評された未開の地で、伝染病が常に蔓延して平均寿命は30歳だったと記録にある。それが日本統治になると上下水道も飛躍的に充実して、1930年には八田與一が貯水量世界3位の烏山頭ダムを完成させ、灌漑水路は万里の長城の6倍に達する距離で荒地を一気に水田に変えて世界を驚かせた。日本で7番目の帝国大学も台北に創設されて50年間での教育や経済発展は目覚ましいものがあつた。

DNA調査によると中国大陸からではなく、8割が南方海洋民族とされる台湾人。地質学的にも地震が多い日本列島群の延長線上にある。台湾中部を襲った1999年の大地震では日本の救援隊も駆けつけ、瓦礫から探し出した遺体に整列して黙祷する日本隊員たちの姿がテレビ放映された。そして東日本大震災では、台湾から200億円もの義捐金が届いた。台湾人口2300万人の10倍もある米国からが100億円であるから、その深い思いは計り知れない。

そんな日本統治時代の1931年、嘉義農林学校野球部(嘉農)。今まで一勝もしたことがない無名の弱小チームだったが、猛練習を重ねて台湾代表に躍り出て、満州や朝鮮からも集まる本土の甲子園大会へ出場することになる。それが映画『KANO 1931 海の向こうの甲子園』(2015年日本

公開)になった。名門松山商業の野球監督をしていた近藤兵太郎が、生徒たちの日本人・漢人・高砂族の混成チームを特訓した結果だった。監督が掲げる夢みたいな高い目標設定に選手たちは戸惑うが、近藤は、「甲子園、甲子園!」と大声を出させて街中を毎日ランニングさせる。人前で何度も唱えていると、それは当然の事実なのだと思が勘違いして潜在意識に刷り込まれる。そして、その声を聞いているまわりの期待度増加もあって、それに相応しい能力が本当に発揮されるようになってくるのだ。最終目的地からが出発点になるように脳を錯覚させる効果的な訓練である。

私は、JAL国際線で30年間乗務員を経験してきたが、世界中のオリンピック金メダリストたちと話す機会に多く恵まれた。彼らの共通点は、勝つことよりも表彰台に昇った時に、誰に向かって、どのようなガッツポーズを取るか!の具体的なイメージを常に描き続けていたことにある。もう一人の自分を頭上の高い位置から客観的に観る“メタ認知”、能でいう“離見の見”である。

今年を逃せば来年卒業生には甲子園出場は無い。みんなで今だけに集中して実力を出し切れ! 加油(頑張れ)!と選手たちを鼓舞する。本土に乗り込んだ無名の台湾代表少年たちは、全国から集まった強豪を次々と破って勝ち進み、ついには決勝まで進んでしまう。台湾の投手は血まみれの指になっても投げ続け、選手たちの一球たりとも最後まで諦めないひたむきなプレーは、やがて、よそ者に冷やかかだった観衆の心を掴み、スタンドから「天下の嘉農!」と声援の渦が巻き起こり始める。惜しくも優勝旗は逃したが、その後、近藤監督は嘉農を四度も甲子園へ導いた。

ガンジーの“明日死ぬかのように生きよ、永遠に生きるかのように学べ!”を肝に銘じる、感動の名作映画だ。